

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490800404	事業の開始年月日	平成29年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト富岡		
所在地	(236-0052) 横浜市金沢区富岡西6-43-31		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 9 名 ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームの活動は「天気の良い日は外に出よう」を理念とし、外出活動に力を入れております。日常的なお散歩は勿論、地域包括支援センターで行われる催し物見物、町内会のお祭り見物、買い物兼ねてのドライブ等を行っており、入居者様からは大変喜ばれております。また、ボランティアの方の受け入れも行っており、将棋ボランティアさんや音楽療法士さんの歌レクリエーションも実施しております。また月に2回は出前、お弁当の日を設け、入居者様が大好きなお寿司を主にご提供させて頂いております。

健康管理の面では医療との連携を迅速に図っております。協力医療機関との会議を毎月行っており、入居者様の体調面での情報の共有し、医療的なケアにも力を入れております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年1月30日	評価機関 評価決定日	令和7年4月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、京急「富岡」駅西口から「能見台車庫」行バスで5分「富岡四丁目バス停」下車1分の近さで、震度7に耐える耐震構造の2階建て定員9名のグループホームです。廊下と全居室に見守り目的のカメラを設置しています。

＜優れている点＞
管理者は勤務シフトを早い段階で計画し、入居者の安全確保を最優先に考えた上で、外出の機会を増やせるよう日中の職員体制3人確保を実現しています。地域包括支援センターが毎月主催するピアノなどの演奏会に毎回利用者2名の参加や、野島公園へのドライブレクリエーション他、地域の様々な催し物へ積極的に参加して「外に出よう」の理念を実践しています。また、医療と福祉の現場をもつ法人独自の教育研修アプリを使い、高齢者虐待防止や身体拘束など各テーマ5分程度のカリキュラムで好きな時間にパソコンで学べる機会を提供しています。事業所内でWEB研修を受講した場合は残業扱いとなり、国家資格を取得した際には、祝い金が支給されます。医療機関との連携強化を図り、受診が必要と判断した際は家族に代わって職員が対応しています。

＜工夫点＞
運営推進会議で身体拘束適正化及び虐待防止委員会を開催しています。出席者の貴重な意見を聞く機会として情報を共有し、職員は見識を高めています。月2回は「弁当の日」とし、利用者が食べたいものを選んで購入しています。その時間を職員は様々な課題を話し合う貴重な打合せ時間として活かしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームソラスト富岡
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価 記入者	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	安心安全を基本とし、施設ではなく我が家として、その方の個性を尊重し、その方のペースで生活して頂く。ただ、ホームに籠りきりではなく、日常的に外出を心掛け、生活の質の向上に努めている。	管理者は入居者の安全確保を最優先に考え、日中の職員体制を3人確保するシフトを実現しています。そのため地域包括支援センターが毎月主催するピアノ演奏会などに毎回利用者2名が参加することや、野島公園へのドライブレクリエーションの他、地域の様々な催し物へ積極的に参加でき、「外に出よう」の理念を実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域ケアプラザの催し物、町内会のお祭り、イベントには積極的に参加している。町内会の消防訓練にも参加している。また、普段からお散歩、買い物に出かけており、地域の方との挨拶、会話等を通じ何気ない交流に努めている。	「町内会防災サポーター」として、管理者と職員が能見台通西町会の初期消火訓練へ参加しています。事業所として安否確認訓練も実施しています。秋の集い、祭りの手伝いにも積極的に参加し、日常的な散歩やスーパーマーケットでの買い物など、利用者は地域の一員として地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の場で地域包括の方、民生委員の方などに認知症の方に対する身体拘束、虐待等の事例を踏まえ、当ホームの取り組みなどをお伝えしている。また、ホーム見学は積極的に受け入れ、相談があれば助言させて頂くなどして対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、身体拘束適正化委員会、虐待防止委員会を設置し、毎回事例を基に仕組み状況等を報告し話し合いを行っている。これらの話し合いで出た意見等を参考にし、普段のケアに取り入れるよう心掛けている。	運営推進会議で身体拘束適正化、及び虐待防止委員会を開催し、出席者の貴重な意見を聞く機会としています。職員は情報を共有し、「こんな時どう対応すべき？」の事例検討会を開き、積極的な意見交換を行っています。議事録を全員が閲覧して見識を高め、サービスの向上に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の方が6名入居されていることもあり、区の生活支援課さんとは頻繁にやり取りは行っている。また高齢障害支援課さん、生活支援課さんからの入居相談等にも対応している。金沢区役所で行われる感染症指導研修には必ず毎回参加しており、情報の交換は適宜行っている。	金沢区の生活支援課以外でも西区・栄区から生活保護受給者の受け入れ相談があります。また介護保険の介護度区分変更申請で、高齢者障害支援課に連絡をしています。金沢区内のグループホーム連絡協議会は民間運営で、現在交流はありません。	

自己評価 記入者	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	毎年、1回以上は研修を行っており、またソラスクール（現在はテラススタジオ）にて自己学習を行う環境を整えている。また運営推進会議の場で行われる身体拘束適正化委員会にて取り上げられた事例の議事録をすべてのスタッフが閲覧、確認し身体拘束の適正化について学んでいる。	委員会の議事録は職員全員に周知し、運営推進会議出席者へは郵送しています。個人で研修を受ける場合は、事業所指定のパソコンからログインし残業扱いで学ぶことが出来ます。新入職員は初出勤の日に、新入職員プログラムで学んでいます。重要事項、虐待、プライバシー、個人情報などの各テーマ5分程度で全て網羅しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に3回以上の研修を義務付けており、事例検討2回、座学1回以上を行っている。ソラスクール（テラススタジオ）では自己学習を行う環境を整え、運営推進会議で行われる虐待防止委員会の事例の議事録を全てのスタッフが閲覧、確認し虐待防止について学んでいる。	管理者は今年度虐待研修として事例検討会を4回行っています。毎年東京都福祉保健財団作成版の「虐待の芽チェックリスト」を全職員対象で行っています。夜間帯で疑惑があればカメラ映像を見て、職員に直接事実確認をしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎年、権利擁護や成年後見制度等の研修は行っているが、生保の利用者様等でこの制度（保佐人）を活用している方はお一人しか居らず、またご本人の利用しようという意思が確認できない為、活用できている状況ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に係る書類が多い為、その原本をご家族様に送付し、内容の確認を行って頂いた後に契約を行うよう努めている。また、疑問点等あれば電話等でご連絡して頂き、質問にお答えしている。契約当日も不明な点が無いか再度確認し契約を行うよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、利用者の活動内容を報告書としてご家族等に送付しており、ご意見やご要望があれば、ご連絡して頂くよう促している。ご家族等から活動等へのご希望等があった場合、可能なものは普通の運営、活動に取り入れるよう努めている。	毎月、家族へ郵送する請求書に添えて、管理者から、健康面や食欲、医師からの助言、日常スナップ写真4枚程度、個別のコメントなどを入れた報告書を送っています。家族からは感謝の言葉が沢山届いています。質問はメールまたは電話でと依頼しています。	

自己評価 記入者	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は定期的に個人面談を実施し、働き方等の相談や希望に関して聞く機会を設けている。また、働き方等に関しては直ぐに実行できるものであれば直ぐに実行し、職員が働きやすい環境を常に整備するよう努めている。	管理者は年2回、職員の個人面談を行っています。キャリアパス目標シートの内容の進捗状況や働き方について、また、希望など一対一で話しを聞く機会としています。他に法人職員が来所し、全職員と意見交換をしています。職員の希望で多いのは利用者サービスの向上と、希望休の調整です。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者の代理は、管理者及び個々の職員と個別面談を行い、改善してほしい所などを傾聴し、改善できるところは改善できるよう、特に人員面など、職場環境の整備に努めている。	居室とリビングが1階と2階に別れている為、管理者は法人へ交渉し、職員を日勤帯3名体制を実現しています。その結果、利用者の地域包括支援センターイベントへの参加や、安全に配慮した公園散歩も可能となっています。また職員の家庭事情に合わせた希望休連続3日以上も可能な限り調整に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	通常のミーティングの場での研修のみならず、法人内研修（テラススタジオ）を充実させ職員はいつでもオンラインでその研修を受講できるようにしており、スキルアップや知識習得、技術向上に取り組む事が出来るような環境を整えている。	独自の研修システム「ステラ」を使い、様々なテーマを各5分程度で、好きな時に学ぶ事が出来ます。事業所内で受講した場合は残業扱いとなります。介護福祉士など国家資格取得時は祝い金が支給されます。昨年度は稼働率100%&事故ゼロで、事業所が表彰され、全職員に商品券が支給されています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	金沢区内のGHとは空室情報、入居希望者情報をメール等でやり取りしている。同じ法人内でも空室情報、入居希望者の情報の共有、また個々のGHの管理者からのケアに関する相談等にも対応するよう努め、全体的なサービスの向上に繋げるよう心掛けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談にてご本人の生活状況を把握しながら話しやすい雰囲気を作り、ご本人の不安や要望を引き出しやすくするよう努め、またその気持ちに寄り添いながら、安心して職員を受け入れてもらえるような関係作りに努めている。		

自己評価 記入者	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日常的な世間話等、何気ない会話などを盛り込みながら、話しやすい雰囲気作りに努めることで、ご家族の不安や要望、本音等を引き出せるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	インテークの段階でご本人の生活状況やご本人ご家族の要望を把握しながら必要としている支援を見極め、グループホームだけに囚われず、他のサービスで対応出来そうなら他のサービス利用で可能であることをお伝えするなど、ご本人にあったサービス、より良いサービスを提案するなどして支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事の一部など職員と利用者が一緒になって取り組み、協力し合う関係を維持している。もう一つの家族だと思い接するようにしており、職員、利用者と区別せず、接するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	困難事例など、ご家族に協力して頂き、お電話等でご本人とお話して頂いたり、行事等に参加された時に、ご家族と意見交換を行ったりと、ご家族に常に協力して頂きながらケアを行うよう努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の面会受け入れ他、敬老会やクリスマスにご家族を招待し入居者がご家族とともに過ごせる時間を提供している。また入院前にかかりつけだった病院への継続受診支援も行っており、ご本人の安心感にも繋げている。帰宅願望の強い方等は以前生活していた場所等にお連れし、懐かしんで頂いたりといった対応も行っている。	管理者は年間行事とは別に、入居者個人のやってみたいこと、墓参りや友達に会うこと、昔住んでいた思い出の場所へ行ってみたいことなど、多彩な希望の実現に向けて取り組んでいます。実際に昔住んでいた町へ行ってみて、50年前の記憶とは様変わりだ難しい面もありますが、利用者の希望を叶えたいとしています。	

自己評価 記入者	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の良好なコミュニケーションを把握し、食事やレクなど相性の良い方同士が関係を深められるよう椅子やテーブルの配置を考慮したり。洗濯物たたみ等の家事が一緒に行えるようスタッフが間を取り持つ等して、お互い支えられるような支援を行うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当ホームにおいては、看取り対応も行い、最後までその方を看るということに努めており、契約終了はすなわちその方がお亡くなりになった時がほとんどの為、契約終了後、利用料等の清算意外にそのご家族と連絡を取り合うことが殆どない。その為、契約終了後の相談、支援を実施したことはありません。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や表情、行動、しぐさから洞察し、やりたい事等を出来る限り本人の希望を尊重し、支援を行っている。またご家族からの意見も取り入れ参考にしている。コミュニケーションが取りづらい方に対しても、表情態度から本人の立場に立って思いを汲み取るよう努めている。	アセスメントや利用者の日々の生活の中で聞き取った「散歩や買物に行きたい」「お酒が好き」などを共有し、近隣への散歩や入浴後にノンアルコールビールを嗜むなどの支援をしています。言葉に表すことが困難な利用者は、態度や声に現れる微妙な変化を見逃さないようにして意向を推測し検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の今まで暮らしてきた過程、生活習慣について本人家族から情報を得て、それらの情報を職員間で共有している。その中からご本人がご本人らしく暮らせるような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	お一人お一人の能力、個性に合った生活の場面を想定し、残存機能の維持や向上に努めている。毎日の健康状態から心身の状態を把握し、一日の過ごし方を考慮するなどして安心安全に過ごせるよう努めている。		

自己評価 記入者	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の様子、ご本人の希望、ご家族の希望等から医療関係者や当ホームスタッフとカンファレンスを行い、その方の健康状態の確認を基本として、当ホームで実行可能な介護計画を作成している。	家族の意向や本人のやりたい事を確認して医師や看護師などの意見も反映し、6ヶ月の目標を設定したケアプランを作成しています。月2回ケアカンファレンスを行い、状態の変化を確認しています。実施状況や今後の対応などを評価してケアプランを見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の介護記録はパソコンの介護ソフトに入力し、スタッフなら誰でも閲覧できるようにしており、介護記録の情報共有を図っている。また、申し送りノートも活用し介護記録以外の情報の共有も図っている。またそれらすべての情報をもとにカンファレンスを行いケア内容の検討を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者や忙しいご家族の要望に応じ、通院援助や物品購入等の支援も柔軟に対応し、積極的に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	週2回の将棋ボランティアや月4回の音楽療法士による音楽レクの実施、近隣の八百屋やスーパーへの買い物、町内会のお祭り、地域ケアプラザの催し物にも積極的に参加し、楽しんで頂けるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医療機関だけではなく、ご本人ご家族の希望によって、入居後も以前かかっていた病院への通院支援や入居者様の変化に応じた新たな病院受診についてのご家族への相談、連携、受診支援も柔軟に行っている。	月2回、協力医療機関の内科医の訪問診療を全員が受診しています。毎週訪問看護師が来所し健康観察をしています。歯科衛生士も毎週来所して希望者の口腔ケアを行っています。専門医への受診の同行は職員が有料で対応しています。受診結果は「申し送りノート」で内容を共有しています。	

記入者	自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31			○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の関りから状態の変化をとらえ、必要時は看護師に相談し、一人一人に合わせた適切な受診や看護が受けられるよう連携を取っている。週一度の訪問看護時には医療面での助言を受け、適切な介護に繋げている。		
32			○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が最適な医療、看護が受け入れられるよう入退院時は必要かつ適切な情報提供を行っている。入院中は出来る限り面会に行き、状態の把握をするとともに医師、看護師からも情報を得て帰設時の適切なケアにつなげている。		
33	15		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にはご本人ご家族の意向を確認し、入居後もその時々状態から再確認を行い、施設内で出来る範囲の対応を明確にしたうえで、少しでも安心安楽な終末期を過ごせるよう支援している。	契約時に家族などに事業所で出来ることと出来ないことなど「延命処置に関する事前確認書」で説明しています。医師が回復の見込みがないと診断した際は、医師の説明のもと家族などに意向を確認し、同意を得ています。「看取り及び救急対応」の研修を行い、看取りをしています。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応について定期的に勉強会を行い、実践に生かせるよう知識や技術の習得に努めている。また、定期的にカンファレンスを開き、起こりえる事故等を想定し、未然に防げるよう日々入居者の日常を見守っている。		
35	16		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間対応・地震対応の訓練を避難経路を想定し行っている。毎回、水消火器を使用し初期消火訓練を行っている。災害時に備え非常時の物品の備蓄、また町内会のスタンドパイプ式消化器による消火訓練、安否確認訓練に参加している。	自然災害と感染症の事業継続計画を作成しています。消防署員に一人体制時の行動について相談し「命を守ること最優先」を念頭に置いて、動揺せず行動できるよう夜間を想定した火災などの避難訓練を行っています。備蓄リストを作成し3日分の水と食料、懐中電灯やガスコンロなどを備えています。	気候変動による、猛暑の熱中症リスクなどについてを話し合い、安全に過ごせるよう対策を講じることを期待します。

自己評価 記入者	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格、尊厳を尊重し、敬意を払い様々な場面、状況に応じてさりげないケアを意識し、心掛けている。また、指示をするような声替えは行わないよう努めている。	利用者への尊敬の念を大切にしています。内部研修で学びを深め、同性介助の意向に添うなど、プライバシーを損ねないよう努めています。法人の意向に従い虐待抑止の目的で居室などにカメラを設置しています。導入時には家族などから了承を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示が困難な入居者を含め、表情や反応を読み取って些細なことでも本人が自己決定出来る場面を作り働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各入居者の様子を常に見ながら、レクの参加の促しや入浴の促しを行い、決して強制はしない。また排泄に関しては間隔が短くとも介助が必要だと判断した場合は直ぐに対応している。入居者のペースに沿った支援が出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時の着替え等、選ぶことが出来る方はご本人に選んで用意して頂いている。難しい方でも職員と一緒に楽しみながら着替えを選んで頂いている。地元の公園で開催されたバザーの時など、ご本人が気に入った小物など購入して頂き、おしゃれを楽しんで頂くよう工夫している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	嚥下機能が低下してきている入居者には個々の状態に応じてお粥、刻み、トロミ等で対応している。月に2回はお弁当の日を設けて好みのものを提供している。片付け、洗い物等はやりたい気持ちを汲み取り、入居者と一緒に取り組んでいる。	専門業者2社の献立から選んで注文し、食事に変化を持たせて楽しめるようにしています。配送される食材を職員が調理してトロミ食などにも対応し食事を提供しています。土曜日の朝はパン食です。利用者は食器洗いや食器拭きなどを行っています。月2回のお弁当の日は好評で、利用者が好む寿司などを提供しています。	

記入者 自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態を見極め、バランス、タイミングを考慮しハイカロリー捕食を提供しつつ、好みや習慣を把握、食器の工夫や食事量も考えて柔軟な支援をしている。職員全員が飲水量、食事量を意識している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず個別の方法で口腔ケアを行っている。拒否のある方、困難な方に対してはタイミングを見て実施出来るように努めている。訪問歯科医にも助言をもらい実践するよう努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄感覚や習慣を把握し、その方に合った介助、支援にあたっている。表情、態度、行動に着目しタイミングを逃さずにトイレにて排泄出来るよう心掛けている。自尊心に配慮しさりげなく支援している。	起床時と午後はポータブルトイレを使用し、午前中はトイレを使用するなど排泄の習慣を捉えて介助が必要な人の支援をしています。立ち上がり落ち着かない様子が見られた時は、混乱して失敗に繋がらぬよう「あちらですよ」などと案内しています。自立している人がトイレでの排泄を継続できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便感覚やパターンを把握して、食事に大根おろしやヨーグルトを取り入れている。水分量を確保するため夜間にスポーツドリンクを用意し、居室にお持ちしている。体操は毎日行い、日常的にお散歩を実施し少しでも体を動かして頂くよう努めている。便秘傾向が改善されない方は医療機関と相談し、下剤等での対応も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日は一人週2回以上設け、1日3名を目安に入浴して頂いている。拒否が強い時は別日に入ってもらったり職員を替える等の対応を行っている。便失禁時等は適宜入浴して頂くなど臨機応変に対応している。	入浴を拒む人は強要せず、時間や対応する職員を変えたり翌日に変更し促しています。何気ない職員との日常会話を楽しんだり、好みの石鹸や入浴剤を使用して香りを楽しむなど、くつろいだ気分の中で入浴できるよう支援しています。	

自己評価 記入者	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時には個々の生活リズムに合わせた支援を行っている。就寝前には排泄介助も行い、寝巻に着替えられる方は着替えて頂き、眠りにつきやすい環境を整え安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬前は職員2人によるダブルチェック、服薬時はご本人と一緒に日付・名前・時間帯に声出しで確認している。服薬表をファイルにまとめ、職員がいつでも内容を確認出来るようにしている。服薬に関しては個々の状態に合わせ、飲みやすい形状などを医師・看護師・薬剤師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の潜在能力を発揮出来るように、出来ることを見極めてお手伝いや活動を支援している。好きな事、嗜好を把握し、ボランティアさんによるレクリエーションも楽しんで頂けるように実施している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	近隣の公園等には日常的に散歩を行っており、その際なるべく入居者の行きたい公園に散歩に行くよう心掛けている。通りすがりの近隣の方には挨拶を心掛け気持ちよくお散歩を楽しんで頂くようにしている。また月に1～2回はドライブ等を行い、楽しんで頂いている。	事前に計画し人員を確保して毎月、地域ケアプラザ主催の演奏会に出かけています。日常的に時間を作り、近隣の公園への散歩や八百屋などで買物をしています。移動動物園の外出レクリエーションでは、利用者が動物を愛おしむ姿が見られ、新たな発見をしています。車いすの人も一緒に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在ご自身で管理されている方はいないが、ご自身が管理できる範囲であればご家族と相談しながら、ご自身でお金を所持しご自分で使いたいときに使ってもらえるような支援を行い、充実感や安心感につなげている。		

自己評価 記入者	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族に了承して頂いた上、ご本人の要望が有った際に電話が出来る体制を整えている。自力での電話が難しい方は職員が間に入り電話でのやり取りが出来るよう支援している。またご家族から電話が有った場合は、常識的な時間で有ればいつでもご本人に繋げるよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掃除は毎日行い、常に清潔に保つよう心掛けている。また適切な温度、湿度、明るさを維持し夕方には西日が入るのでまぶしさの訴えが無いよう遮光に気を配っている。壁面には花の写真や絵などを飾り季節感を出している。	空調の温度管理や掃除が行き届き、カーテンで西日に対応するなど利用者が快適に落ち着いて過ごせる空間となるよう配慮しています。トイレへの使い勝手を考慮して車いすの通行に支障のないようにしています。季節行事の写真の掲示や日常的に行っている散歩から季節を感じ取ることができるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは仲の良い方同士でテーブルを囲んで頂いている。またテレビ周辺のソファではテレビを観たり、居眠りをされたりとそれぞれの入居者が自由に利用されている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅から持ち込まれた寝具や小物等、安心感のあるお部屋作りをし、工夫されている。また居室内には温度計を設置しており、適切な室温で過ごして頂けるよう室温管理はきちんと行い、不快にならないよう配慮している。	居室には、テレビや仏壇、写真、ベッド、チェスト、ポータブルトイレなどが持ち込まれ、利用者ごとに個性ある設えとなっています。利用者が管理できれば金魚や亀などの持ち込みは可能ですが、火気と刃物は持ち込み禁止です。居室に鍵をかけることで安心して就寝する人がいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者が出来るだけ自由に安全に歩いて頂けるよう、手すりの設置や動線上に障害物が無いよう、テーブル上には等々の危険物を置かないよう、物の整理や環境整備を行っている。		

2024年度

事業所名 グループホームソラスト 富岡
作成日： 2025年 4月 10日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	16	猛暑時期の災害発生時での停電により、入居者及びスタッフの熱中症の発症リスクの低減。	停電により、冷房等の設備が使用出来なくなった場合に於いての冷房設備の稼働もしくはそれに代わる冷房対策を実施出来るようにする。冷蔵庫は絶対稼働させたい。	ポータブル電源や発電機等の用意、またポータブルエアコン等の冷房設備の準備。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					